

中学生の運動環境を整える

子どもたちに夢と希望を

スポーツの普及や交流などを通じて、県民幸福度の最大化を目指す静岡県は「スポーツ王国しずおか」を合言葉に、アスリートの育成やスポーツ人口の拡大に向けた取り組みを積極的に進めている。今回は、中学生が運動する環境を整える多彩な取り組みを紹介する。

地域でスポーツの輪を

通学する中学校に希望する運動部がないことが、問題になっている。背景には、少子高齢化による生徒数の減少があり、部活運営に必要な部員数を確保できないという事情があるものの、やってみたいスポーツができない状況は、中学生にとって悲しい現実だ。そこで本県は、希望する運動部がない、あるいは、専門的な指導が十分に受けられない生徒のために、平成28年度から、磐田市に地域スポーツクラブの設置を委託し、モデル事業を進めている。

磐田市がモデル事業の場所に



磐田スポーツ部活で陸上競技のトレーニングをする中学生。生徒減少等により陸上部のない中学校が増えている。

選ばれた理由は、サッカー、ラグビー、卓球などのスポーツが盛んに行われている土地柄である

ことに加え、ヤマハ発動機、静岡産業大学、磐田市体育協会などとの連携強化によって、継続運営していくことが可能であるからだ。事業が軌道に乗れば、同市をモデルとした地域スポーツの輪を県内全域へ広げていこうという思惑がある。

多彩な観点でモデル化

磐田市のモデル事業は「地域スポーツクラブ」と呼ばれ、「スポーツ部活」「スポーツ塾」「スポーツ体験教室」の3本柱で構成されている。

「スポーツ部活」は、中学校に希望する部活動がない生徒に対して、その種目のクラブを

ズを聞き出す情報収集の場としても活用されている。

トップ選手の指導も

本県は、全県の中学生や顧問教師を対象にした「トップアス



トップアスリート等派遣事業。世界トップレベルの技術に参加中学生の目は釘付け。

設置する取り組みで、現在はラグビーと陸上競技を実施している。活動日はラグビー部が週4回、陸上競技部が週5回が基本だ。

「スポーツ塾」は、バレーボールや卓球などを対象に、一層の技術指導を希望する生徒に、競技力向上につながる練習機会を提供している。合同練習というスタイルは、他校のライバル選手と触れ合う場にもなり、参加者の意識向上にもつながる。

「スポーツ体験教室」は、学校の部活動とは別に、スポーツに触れる機会を提供するプログラムだ。種目は「スポーツ部活」や「スポーツ塾」に含まれないトランポリンや硬式テニスなどが対象であるため、小中学生のニ



「スポーツ体験教室」でトランポリンを実施。

リート等派遣事業」も行っている。この取り組みは、中学生や顧問教師がオリンピック選手等のトップアスリートから直接指導を受けることで、本県中学生の育成強化を行い、部活動の活性化を目指すものだ。対象競技は野球、陸上競技、サッカー、バスケットボール、バレーボール、ソフトボール、卓球等、多岐にわたる。平成28年度は、計40回の派遣で、述べ3234人が受講した。

参加者の反応はすこぶる好評であり、「この日は忘れないう」強くなってアスリートに恩返ししたい」といった声も多数寄せられている。

子どもたちが自ら望む種目に取り組める可能性が広がることや、トップアスリートから指導を受けられるチャンスがあることは、未来を担う子どもたちに大いに夢と希望を与え、やる気や自信を持つてスポーツに打ち込めることにつながる。そうした環境づくりが、今後の「スポーツ王国しずおか」を支える大きな礎となるだろう。

Pick up Athlete 04

アスリート
いちかわ だいすけ
市川大祐さん

元サッカー日本代表
清水エスパルス普及部コーチ

挑戦を続ければ、
夢は必ず
見えてきます。



トップアスリート等派遣事業で指導する市川さん。

サッカー日本代表の歴史において、史上最年少デビューという記録を持つ市川大祐さん。W杯日韓大会で見たアシストのシーンは、今なおサッカーファンの記憶に深く刻まれている。そんな市川さんも2016年に現役引退。現在は、清水エスパルスで後進の育成に当たっている。「私は、子どもの頃から明確な夢を持っていました。夢は、競技を続ける大きな力になります。ただ、目標がなくても、今できることを根気よく続けて

いれば、やがて夢の形が見えてきます。これは、ケガに悩んだ選手時代に培った財産。だから、焦る必要はありません。大切なのは、挑戦を続けることで成長を自覚し、自信を養うことです」と市川さんは後進へアドバイスを送る。

市川さんは、本県が取り組む「トップアスリート等派遣事業」の講師として、中学生を指導した経験を持つ。「今の中学生は、基礎技術が高い反面、競技者としての自己主張がやや希

薄です。そこで私は、生徒一人ひとりを丁寧に観察し、最適なタイミングで最良の助言をするように努めました。自分を見守ってくれている人の存在を知ることが、生徒にとって大きな励みになるからです。

現役引退後、まだ次の夢に出合っていないという市川さん。「でも、焦ってはいません。毎日挑戦を続けていけば、いつか必ず夢が見えてきます。その意味で、今の私は、夢の準備段階。若い選手やチームスタッフと全

身全霊で接しながら新しい夢を探しています」。市川さんのサッカーにける情熱が尽きることはないだろう。



Profile

元プロサッカー選手。1980年静岡市(旧清水市)生まれ。サッカー日本代表の最年少出場記録「17歳322日」を持つ。1997年から2010年まで清水エスパルスで活躍。その後、甲府、水戸、藤枝、今治、八戸などで競技を続け、「誰よりもサッカーにまじめな男」として選手やファンに愛された。2016年に現役引退。現職は、清水エスパルス普及部コーチ。